

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成23年度配分 研究成果の概要

研究名	空間造形学科の将来構想				
特別研究費 配分額	デザイン学部長特別研究費 1,700千円				
特別研究費 執行額	1,250千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	教授	鳥居厚夫	総括・造形
共同 研究 者		空間造形学科	教授	川口宗敏	都市・ランドスケープ
		空間造形学科	教授	海野敏夫	構造・建築
		空間造形学科	教授	寒竹伸一	都市・ランドスケープ
		空間造形学科	准教授	中山定雄	インテリア・空間演出
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:学科FD会議・定例学科会議 での報告		発表日 (発表 予定日)	平成 24年 3月21日	

注:配分を受けた翌年度の5月末までに提出

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成23年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	空間造形学科の将来構想				
配分を受けた特別研究費	デザイン学部長特別研究費 1,700千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究者
	デザイン学部	空間造形学科	教授	鳥居厚夫	他 4名
発表の方法	1 紀要 名称:		号数	第 号 ( 頁～ 頁) ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:学科FD会議・定例学科会議での報告 調査・研究を踏まえて25年度新規採用教員2名の専門分野を決定。		発表日	平成 24年 1月11日 平成 24年 3月21日	

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の3月末までに提出

(研究の目的等)

県立化によるメリットを活かし、大学間競争を勝ち抜くために、静岡県内唯一の一級建築士受験資格認定校という肩書きだけに頼ることなく、より積極的に全国の建築系大学の中でその存在をアピールできるよう学科のあり方を再検討し、その方向を明らかにする。合わせて、デザイン学部1学科構想の可能性を見据え、空間造形学科として実現に向けた検証を行う。

これらの研究を通して、教員の学科活性化のための意識向上を図る。

(研究の実施方法等)

1. 現状を把握する為に、本学デザイン学部および空間造形学科に関して他大学のそれと比較して、何が特徴であると思われるのかを、学外者へのアンケートまたはヒアリングなどにより調査。
2. 同時平行的に海外を含む建築系大学の大学案内の収集。
3. 上記データを下に視察・ヒアリング先を選定。
4. チューリッヒ工科大学(スイス)藤重俊也氏にカリキュラム・設計課題等の内容についてヒアリング。  
ヘルツオーク&ド・ムーロン設計事務所チーフアーキテクト石田健太郎氏にスイス・ヨーロッパの建築設計の実情についてヒアリング。
5. 国内大学の卒業設計展を視察。  
東京芸術大学・東北芸術大学・武蔵野美術大学・多摩美術大学・金沢美術工芸大学・岡山県立大学
6. これらの調査・研究により本学空間造形学科将来の在り方と効果的な教育手法を提案。

(得られた成果等)

- ・教員が学科の特色を共有することで、より戦略的に学科運営や研究・授業の組み立てを行うことが可能となる。
- ・本学・本学科の特色を明確にすることで、幅広く全国にその存在を知らしめることができ、結果として全国から広く受験生を集めることが出来る。また、学生の質の向上、就職率の向上などに期待が出来る。
- ・デザイン学部1学科構想の可能性を見据え、これらを実現するために25年度新規採用教員(2名)の専門分野の絞り込み。

## 平成 24 年度 学科・研究科 F D 研修会 報告書

(空間造形学) 科

期日	場所	実施形態	参加人数	内容(①テーマ②概要等)
7/19 (木) 16:20 ~ / ( ) :	北 306	合宿形式 <u>拡大会議形式</u> 分科会形式 セミナー形式 その他	8 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度から新規に2教員が加わることとなり、また、再来年以降も教員の入れ替わりが発生するため、長期的展望の下、科目の統廃合を含めた抜本的なカリキュラムの変更を検討しておく必要があるとの提案から、学科の将来構想を議論した。</li> <li>・学科専門科目の内容を確認し演習や座学の連続性および学年が進むにつれての発展性などをチェックし、教員の教え方や演習課題の内容を情報交換した。4年間を通した内容という観点で授業体系を検討した。</li> </ul>
11/22 (木) 13:00 ~ / ( ) :	北 306	合宿形式 <u>拡大会議形式</u> 分科会形式 セミナー形式 その他	7 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教員2名が内定したことに関連して全教員の持ち授業と委員会体制などを総点検し、負担の偏りなどを来春の新体制で修正すべく検討した。</li> <li>・新教員の持ち授業を決定し、春までに授業準備が行えるようにどのようにサポートしていくかを検討した。</li> <li>・新体制に向けて、長期間依頼していた非常勤講師を入れ替えることに決定し、今後は約3年を基準に講師陣を入れ替え社会のニーズに対応していくこととなった。</li> </ul>
1/11 (金) 16:30 ~ / ( ) :	北 303	合宿形式 <u>拡大会議形式</u> 分科会形式 セミナー形式 その他	10 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内定した新教員2名を学校に来ていただいて、学科教員と情報交換した。</li> <li>・春からの授業などを説明したうえ、学科の体制やアドミッションポリシーを説明し理念を共有した。</li> <li>・新4年生のゼミ選択肢が増えることによる情報開示について議論し、新学年スタート時に混乱の無いように検討した。</li> <li>・会の終了後に自費による親睦会を開催した。</li> </ul>

平成 23 年度 学科・研究科 F D 研修会 報告書

( 空間造形学 ) 科

期日	場所	実施形態	参加人数	内容(①テーマ②概要等)
7/ 14 (木) 11:00 ~ 7/15 (金) 12:00	リステル 浜名湖	合宿形式 拡大会議形式 分科会形式 セミナー形式 その他	7人	①テーマ 1. 学科の現状と対応についての意見 ○空間造形学科の現状について ○学生のレベルの向上をはかるための方策 2. 教育内容についての具体的な改善案 ○空間を好きになるための仕掛けをつくる 3. 卒業設計の採点について 4. 学科の方向性と教員の公募について ②概要 会議室にて集中的に審議、食事中も議論をおこなった
/ ( ) : ~ / ( ) :		合宿形式 拡大会議形式 分科会形式 セミナー形式 その他		
/ ( ) : ~ / ( ) :		合宿形式 拡大会議形式 分科会形式 セミナー形式 その他		
/ ( ) : ~ / ( ) :		合宿形式 拡大会議形式 分科会形式 セミナー形式 その他		

※ 資料は適宜添付してください。